

西濃事務研究会報

平成 23 年 6 月 15 日

平成 23 年 5 月 31 日、大垣市市民会館にて研修会を行いました。

研修① 講話「学校の管理運営と事務」 西濃教育事務所 所長 谷本龍馬 様



3月11日に大震災が起こった。社会総がかりで子どもを育成する教育の条件支援と実現を目指し、学校づくりの一翼を担ってほしい。一つには、財政管理を支えるスタッフとして、いかにお金をかけず最大の教育効果を生むか、アイデアで勝負する。二つめには、危機管理の一翼を担い、危機を予測し、事前に防ぐこと。特にお金の面では、納税者である住民の期待にこたえるよう一つ一つに意識を払う。三つめには、開かれた学校作りのスタッフとして、学校の情報を外にひら

くことで、地域のほこりである学校づくりを。会計報告も地域へのメッセージである。個々の資質、組織力の向上をはかり、子どもたちに健康と豊かな心、確かな学力を身につけさせたい。

寺田寅彦の言葉「文明が進めば進むほど、天然の暴威による災害がその劇烈の度を増す」があるが、今、物質文明を問い直す時ではないか。夏の省エネの取り組みとして早めのクールビズなどがあるが、学校でも具体的に課題を示し、子ども・先生と一緒に考えてほしい。節約の呼びかけが、あまり効力を発しないのはなぜか。「そういう物だ」「仕方ない」という思い込みがあるのではないか。工夫している先生を見つけ、認めていってはどうか。協働とは、①共通の目的があること、②お互いの強み＝良さを引き出すこと、③努力している先生を見つけて褒める、等その良さをかみ合わせること。

では、どのような学校にしていくか。一つには、子どもが学ぶところであり、二つめに先生方の資質を高め（省察）、新しい自分を創造する場である。三つめには、保護者・住民が集って学びあう場であり、新しいつながりができる場である。どれも子どもを蝶番にしながらお互いが関わっていく場である（子縁）。事務の共同実施があるが、いざという時に力を合わせることでできるシステムであり、日常的な関係づくりが必要である。

次に、どのような考え方が必要か。一つ目は“トレサビリティ”。元をたどる、の意。メカニズムを分析すること。分析をしないと、同じことが何度でも起こる。二つ目は“マイルストーン”。目的を達成するまでの節目ごとにチェックをする。そして、先生方との信頼関係が必要である。お互いに言い合える関係を築き、事実を確かめあって本当のきずなをつくってほしい。

事務職員は行政の専門性を生かしてシビアに指摘しながら、一方で努力している先生を認めながら目的を達成してほしい。

研修② 事務指導 西濃振興局出納課 管理監兼出納課長 所 博文 様

旅費の基本的な考え方と校長の責任について（出納審査から）

◎ 現在、一般県民もホームページから県職員の旅費支給状況を確認できる現状から、行政機関に旅費支

給の正当についての問い合わせがある。公金である旅費は、貴重な税金より支出しているという意識を忘れることなく、一般県民等の目線でみた場合にも、充分妥当であると考えられる『理由（根拠）』のもとに旅行命令を出す責任が学校長にはある。

◎ 旅費の特殊性

通常の支出とは異なり、学校では学校長が出張命令を出す、旅費請求は旅行者（教職員）が行う。不適切な旅費支給があった場合、請求受領した責任は旅行者（教職員）にもあり、返還義務が生じる。

◎ 旅費の実務

過去において、認められた事例があればそれで良いということではなく、判断はケースバイケースで違ってくる。学校長は、旅行命令を出した『理由（根拠）』を明らかにする必要があり、情報公開に耐えうる書類を整えておく必要がある。



研修② 事務指導 西濃教育事務所学校職員課 学校人事担当 服部公彦 様

今年 50 歳になるが、28 年間すばらしい事務職員に出会い、支えてもらった。子どもを育てるということは、先生を育てるということである。たとえば、先生のアイデアで教材を作りたいといった時に、予算面などで支えてもらっている。事務研には、テーマにそって、大きな転機を迎えた日本の教育の環境整備、支援にむけて研究をすすめてほしい。

研修③ 研修計画について 研究推進委員長 温知小学校 志邑みずほ

「西濃事務研のめざす姿」は「学校の教育目標具現に向け役割を果たす事務職員」であり、そのために必要な3つの力「実務力」「対応力」「人間力」を高めていく研修を計画している。

昨年度、全事研副会長の横山泉様を講師にお招きし、財務マネジメント研修を行った。研修後のアンケートから、「勉強になった・刺激になった・自分の仕事に取り入れてみたい」と、意欲的な思いであることが窺えた。取り入れたいと思ったことやグループワークで決意表明したことを実践し、自校の課題解決、改善に生かしてほしい。秋の研修会では、この財務に関する実践について、再びグループでの交流を行うことを計画している。その折には、現状・決意・方策・実践・成果・課題等をまとめたシートを持ち寄ることで、より有意義な交流にしたいと考えている。シートの様式については、近く配信する予定。また、研究推進委員会では、財務マネジメントにあたり、具体的方策として「教育活動の把握」「情報提供」「費用対効果の検証」の3つをあげている。これらについて、より具体的に実践事例の形で発表していきたい。

これらの研修計画と平行して、事務部経営案については本年度も継続して行う。各自の実践を中心とし、呼びかけや資料提供をし、研修会当日に2名程、経営案の取組に関する実践の発表をしていただく。

研修④ つくば研修報告 赤坂中学校 小川秀文

2月14日から5日日程の事務職員研修に参加してきた。演習では、自校のミッションについて、児童生徒、保護者、地域住民、教育委員会、教職員ごとに、たとえば、児童にわかりやすい授業、確かな学力などを拾い上げた。また、予算書作りでは、自校の学習活動を例にして、ボランティアに必要な報

償費、視察に行くための旅費、資料をとりよせるための郵送料など一つ一つ積み上げた予算書を作った。全国の事務職員と交流ができ、有意義な研修であった。

諸連絡 ①総会

会長挨拶 揖斐川町立谷汲小学校 石原 明美

3月11日におこった東北地方の大震災では、多くの学校が倒壊し、子どもたちが命をなくしている。本校の教頭が、“今この機会に、「命の大切さ」を訴えなければならない。是非、道徳の授業で取り上げてほしい”と言い、自ら師範授業をおこなった。ここにいる私たちは、当たり前のように始業式・入学式を行い、それぞれの学校で勤務しているが、被災地の学校では校舎は残っていても学校としての機能を果たしていない。運動場は使えない。教室や体育館も、避難場所になっている。子どもたちのストレスはもちろんこと、そこで勤務している教職員も、大変なことと思う。

先日、県教委 藤岡 教職員課長さんから次のようなお話があった。

東北地方で起きた地震だが、東海地方・岐阜県でもいつ起きてもおかしくない。今回の震災を教訓に、学校のあり方、事務職員のあり方について、もう一度考える必要がある。

◎ 震災後の学校のあり方について

何を最優先するのか＝「安全・安心・子どもたちの命・地域住民の命」

- ・危機管理の要諦として、災害時の初動、二次被害防止、避難所運営
- ・施設設備として、堅牢な施設、物資の備蓄



- ・他機関との連携として、消防署、警察、行政、病院、福祉施設

今、学校の役割は増大している。教育以外の事務は、誰に担わせるのか。教員は、子どもの心のケアや安否確認に専念すべきであり、新しい役割を担うのは事務職員こそ適任である。そのために必要な力は「危機管理能力」「他機関との調整能力」「施設設備の整備・運営能力」の3つであるとのお話だった。

これは、西濃地区の事務職員がつけたい力のうちの「対応力」をさらにアップさせた、「学校運営だけではなく、地域全体をみた運営」さらには、「地域から信頼される学校づくり」である。私たち事務職員は、学校を取り巻く様々な変化に、創造的かつ柔軟で適正な対応ができることが大切である。

来賓ご挨拶 西濃小中学校校長会長 近藤 茂 様

定数調査の折には、事務職員の先生方にはお世話になった。

- ① 学校の職員数、児童数、小学校と中学校の違いで、事務職員の仕事量には違いがある。若い内にいろいろな学校を経験した方がよい。
- ② 事務職員は一人しかいない学校がほとんどなので所属内に目標、比較する人物がない。自己満足せず、自己研磨する必要がある。
- ③ 事務職員はお金を扱う仕事が多いので、懲戒処分を下される確率が教員よりも高い。自分に厳しく、

また、複数の目で書類の確認をする。異動時に引き継ぎがスムーズにできるよう日頃から心がける。

- ④ 近年事務職員から教頭、知事部局へ人事異動した人たちがいる。10 年先に夢を持って仕事をしてほしい。

議事

議案書どおりにすべて承認

②連絡

研修指導委員会

8 月に若年層研修、秋の研修大会で実務指導を行う。その他、質問の回答、HPでの返答、手引書と年度初め事務手引きの管理、初任者研修の手引きの見直しを行う。

情報担当委員会

西濃事務ネットのパスワードを変更する。容量が 200M から 1 3G になったので、郡市研究物、個人の研究物のアップに利用してほしい。8 月開催のパソコン研についてのアンケートを 6 月にジムネットを利用して行う。

県事研理事

今年度、委託事業で事務の日プロジェクトを行う。8 月には夏季研を各務原市で開催する。

垂井町立北中学校の吉田喜久子さんに監事をお願いする。

県総務部

事務日誌の在庫があるので、購入希望者は、総務部長まで連絡する。

県研究部

課題別マニュアルの改訂を行う。11 月頃に HP で公開予定、夏季研ではビジョンについて解説する。

県研修部

8 月 18 日に夏季研修会を各務原市民会館にて終日日程で行う。持ち物、会誌を忘れずに。

スキルアップ研修、先日メールした案内をみて参加して下さい。